



「園内風景」 入江 章子 1998年 油彩、キャンパス 60.6×72.7cm

熊本県にある菊池恵楓園は、1909年ハンセン病療養所として開設されました。そこには『金陽会』と呼ばれる絵画クラブがあります。入所者が描いた作品は、豊かな感性にあふれ、日常の生活や望郷の思いなどが色鮮やかに描かれています。ハンセン病問題について「知らない」ことを「知る」きっかけに「光の絵画」と呼ばれる金陽会作品をぜひご覧ください。

# 「知らない」を 観に行こう。

vol.10



期間：2023(令和5)年

2月28日(火)～3月12日(日)

会場：岩戸山歴史文化交流館 いわいの郷 (八女市吉田1562番地1)

開館時間：9:00～17:00 (最終入館 16:30 まで)

休館日：月曜日 (祝休日の場合は翌日)

## 講演会

「金陽会」作品を通してつたえたいこと

入場無料

日時：3月4日(土)13:30～14:30 場所：いわいの郷

講師：キュレーター 蔵座 江美さん

「金陽会」作品との出会いから現在までの歩みを振り返り、保存・展示活動に力を注ぐ思い、自身のハンセン病問題との向き合い方について語っていただきます。

講演会については

手話通訳・一時保育あります

(一時保育・要予約 2/17 まで)

主催：八女市人権フェスタ実行委員会



「遠足」 木下 今朝義 1996年 油彩、キャンパス 45.5×53.0cm

6歳でハンセン病を発病した木下今朝義さんが学校に行っていたのは1年足らず。その中で楽しい思い出はほとんどなく、いじめられて泣いてばかりいたと後に語られています。満開の桜を鑑に列を作って菜の花畑を歩いた遠足は、仲間と行動を共にした唯一の記憶だったのかもしれない。「らい予防法」が廃止された年に描かれたこの作品は、木下さん82歳の時の作品です。

国立療養所「菊池恵楓園」の入所者が集う絵画クラブ「金陽会」は、昭和28年、一人の看護師の呼びかけで始まりました。活動が金曜日だったこと、太陽のように明るく活動が続けようとの思いから「金陽会」と名付けられました。

離れて暮らさなければならなかった家族——帰ることが叶わなかったふるさと——国のハンセン病隔離政策と、社会の偏見や差別によって、過酷な境遇に置かれながらも希望を見出し生き抜いた人たちが。

入所者の方々の豊かな感性が溢れる金陽会の作品から「知らなかった」ことに気づき、ハンセン病問題について考えてみませんか。

#### 【会場地図】



岩戸山歴史文化交流館

いわいの郷

(八女市吉田 1562 番地 1)



#### ■藏座江美さん

元熊本市現代美術館学芸員。2002年の開館当初から菊池恵楓園と関わり、菊池恵楓園絵画クラブ金陽会作品展「光の絵画 vol.1～3」を担当。現在、一般社団法人 金陽会理事として、菊池恵楓園絵画クラブの作品の調査・保存に携わる。『知らない』を鑑に行こう。vol.2(2018 福岡)、「ふるさと、天草に帰る」(2020 天草)、「これまで→これから」(2022熊本)など各地で展覧会を開催。



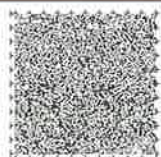
#### キュレーター 蔵座 江美さんによる講演会

演題:「金陽会」作品を通してつたえたいこと

日時:3月4日(土) 13:30~14:30

会場:岩戸山歴史文化交流館 いわいの郷

※キュレーター:美術品や芸術作品を鑑定し、展覧会などを企画する専門職、学芸員



音声コード  
(Uni-voiceアプリ対応)

問合せ先 八女市人権・同和政策・男女共同参画推進課

TEL 0943-23-1490

Mail jinkenkeihatu@city.yame.lg.jp

